

サム・ライミ『スパイダーマン』（2002） に於けるスパイダーマンによる メリー・ジェーン・ワトソンの救出の演出

木村建哉

序

本論文では、サム・ライミ Sam Raimi 監督の映画『スパイダーマン』*Spider-Man*（2002年公開）に於いて、スパイダーマンによるメリー・ジェーン・ワトソン Mary Jane Watson（以下 MJ と略記、キルステン・ダンスト Kirsten Dunst）の三度の救出がどの様に演出されているかを分析する。

映画『スパイダーマン』は、本篇の冒頭近くで主人公ピーター・パーカー Peter Parker（トビー・マグワイア Tobey Maguire）がヴォイスオーバー（ナレーション）で語っている様に（ch.1, 0:03.25-）、「全く或る女の子についての物語」であり、ヴォイスオーバーの途中で MJ がクローズアップで映されることでそのことが強調されている。MJ はこの映画にとって、そして『スパイダーマン2』*Spider-Man 2*（2004年）と『スパイダーマン3』*Spider-Man 3*（2007年）とを合わせた三部作中で決定的な重要性を持つ¹⁾。勿論、メインプロットで主人公、多くの場合は男性による何らかの目標の達成、或いは時には不達成を描き、サブプロットではかつては男女、多くの場合は男性の主人公とヒロインの、近年では場合によっては男性同士や女性同士の、恋愛の成就、時には不成就を描き、メインプロットとサブプロットを密接に関連させながら物語を進行させるのは、古典的ハリウッド映画以来のハリウッド映画、或いはアメリカ映画の定石である²⁾。そしてこの定石はハリウッド映画、アメリカ映画以外の様々な国や地域の映画にも取り入れられているのだが、『スパイダーマン』に於いては、MJ はピーターにとって叔母メイ

が言う様に6歳位の頃からの憧れの対象、恋愛対象であり (ch.14, 1:38.03-)、ピーターは遺伝子操作を加えられた蜘蛛に噛まれてスパイダーマンと成ったことで MJ との関係も劇的に進展するのだから³⁾、MJ は他のハリウッド映画、アメリカ映画に於けるヒロインよりも遙かに大きな重要性を持っている。

こうした重要性を観客に強く印象付けるために『スパイダーマン』ではどのような演出が用いられ、又 MJ の救出が他のどのような要素と結び付けられているかを、そしてこの映画の中で三度に渡って行われる救出の度毎に MJ が成長し、ただ一方的に救出されるのではなく自らの力を発揮する様に成って行く過程をも本論文では明らかにする。そしてスパイダーマンによる MJ の三度の救出は、彼による子どもの三度の救出と組み合わされているのだが、そのことが持つ意味と効果も併せて論ずる。

1. スパイダーマンによる MJ の一度目の救出

スパイダーマンによる MJ の一度目の (最初の) 救出は、ニューヨークのタイムズスクエアで行われる (ch.17, 1:04.20-) ⁴⁾。そこでオズコープ社 Oscorp Industries によって行われている調和の日の祭典 Unity Day Festival の最中にグリーン・ゴブリン Green Goblin が襲撃する。この時点では、グリーン・ゴブリンの正体であるノーマン・オズボーン Norman Osborn (ウィレム・デフォー Willem Dafoe) は、自らが人体実験の被験者と成って飲んだ薬の副作用で自分の中にグリーン・ゴブリンという悪逆非道で破壊的な別人格が発生したことにまだ気付いていない。グリーン・ゴブリンは、社長であるノーマン・オズボーンを辞任させ、オズコープ社をライバルであるクエスト社に売却することを既に決定した取締役会のメンバー達の多数を、彼等のいるバルコニーに小型爆弾を投げ込んで殺す。ノーマン・オズボーンは自らがグリーン・ゴブリンに成ってしまったことにまだ気付かずにいるが、グリーン・ゴブリンのこの行動は明らかにノーマンの潜在的な願望或いは欲望を代行し現実化したものである。但し、グリーン・ゴブリンは行動に制御が効かず、オズコープ社の取締役達を殺害するのみならず、建物の周辺部も爆弾で破壊し、多くの人々を危険に巻き込む。

ノーマン・オズボーンの一人息子ハリー Harry (ジェームズ・フランコ James Franco) と付き合い始めていた MJ は、彼と共にバルコニーの取締役達からは少し離れたところにいる。写真を撮影していて、誰か子どもが離れたと思われる風船を眼で追っていたピーターは、ハリーと MJ がバルコニーにいるのに気付く、既に MJ から聞いていたとはいえ (ch.9, 0:57.09-)、二人が本当に付き合っていることを実感するが、やや遅れてハリーもピーターが自分達を観ていることに気付く。グリーン・ゴブリンが投げ込んだ爆弾でバルコニーが激しく損傷して傾いたため、MJ はそこから今にも滑り落ちて落下し、ほぼ間違いなく死んでしまうであろう危機を迎えるが、彼女を助けようとするハリーは、爆弾に破壊されて落ちて来た建物の一部だったのであろう石が頭を直撃して昏倒してしまい、それが出来ない。

ここで服を脱ぎ、その下に着ていたボディースーツ姿となり、マスクを被ったスパイダーマンが登場しグリーン・ゴブリンと戦いを開始する。機関銃やミサイルを使うグリーン・ゴブリンに対して、スパイダーマンは身体と手首から発せられる蜘蛛の糸のみで戦う⁵⁾。彼は、グリーン・ゴブリンの両眼を蜘蛛の糸で塞ぎ、そのグライダーの下部に手を突っ込んで破壊することにより、グリーン・ゴブリンを退散させることに成功する。尚、ここで MJ はスパイダーマンに一方的に救われる訳ではなく、自らに声を掛けるスパイダーマンに対して「気を付けて (Watch out!)」と叫んでグリーン・ゴブリンの攻撃を知らせている。

グリーン・ゴブリンが去った後で、バルコニーが崩れ落ちてしまい、MJ は落下するのだが、飛び込んだスパイダーマンが抱きかかえて、蜘蛛の糸を使って地面への激突を防いだことによって一命を取り留める。その後スパイダーマンは MJ を抱いて、蜘蛛の糸を使ってニューヨークの街の中を飛び回るのだが、ここに憧れの MJ と抱き合って二人きりの時間を持つことが出来る千載一遇のチャンスを生かそうとするピーター・パーカーの意図を読み込むことは恐らく行き過ぎではない。とは言え、MJ をそのままタイムズスクエアに残したならば、MJ とハリーを合流させることにも繋がりかねないと考えてのことだと推測するのは流石に深読みであろうか。

ビルの屋上に降りたスパイダーマンと MJ の二人はそこで別れるのだが、「あなたは誰か (Who are you?)」と些か不躰でもあろう物言い

尋ねる MJ にスパイダーマンは「僕が誰か君は知っている」と答え、更に「あなたの親切なご近所のスパイダーマンだ。(Your friendly neighborhood Spider-Man.)」と言い添える⁶⁾。「あなたの親切なご近所のスパイダーマン」はグリーン・ゴブリンの出現以前にスパイダーマンがメモとして書き残していたフレーズで (ch.9, 0:52.22-)、恐らく彼は例示した場合以外にもこのフレーズを多用していたのではないかと思われるのだが、MJ を相手とする場合には、これは文字通り事実である。MJ とピーター・パーカーは家が隣同士なのだから。こんなところにも、実は自分の正体を MJ には本当は知って欲しいというピーター・パーカーの思いが隠れている⁷⁾。

次の場面 (ch.11, 1:15.50-) では、帰宅した MJ はハリーと電話で会話するのだが、彼とスパイダーマンを対比するためであろうが、前の場面とはサウンドブリッジで繋がれている。ここではハリーとその電話の様子を聞くピーターの側のみが示され、ハリーが何度か聞き返し或いはその意味を問う、スパイダーマンについての「信じられない (incredible)」という言葉で MJ の興奮した様子が伝わって来る。焦ったハリーは直ぐに MJ と会おうとするが断られ、翌朝に会うことと成る。この場面での描写から、MJ がハリーと付き合っているのは実は恋愛感情からではなく、粗暴な父親との貧しい暮らしに由来する虚栄心とも言うべきものを満たすためではないかという些かの疑念を観客は感じるのではないか。電話を終えたハリーは、MJ と付き合っていることをピーターに隠していたことを詫び、ピーターもその謝罪を少なくとも表面的には受け入れる。ハリーが言う通り、ピーターはずっと MJ のことが好きだったにも関わらず、彼女に愛を打ち明けることも交際を申し込むことも全くして来なかったからである。但し、実は MJ を夢中にさせているスパイダーマンの正体であるという点で、ピーターの心中はかなり複雑であろう。

2. スパイダーマンによる MJ の二度目の救出

スパイダーマンによる MJ の二度目の救出は、MJ のオーディションが終わるのを待ち構えていたピーター・パーカーと彼女の会話 (ch.12, 1:17.51-) の直後に行われる。MJ の、父親とは恐らく離婚しており別居状態である母親から、メイおばさんを経由してオーディションの話

知ったピーターは、バス二台とタクシーを乗り継いで MJ に会いに来たのである。MJ がハリーと食事すると聞いてピーターは彼女と別れるが、その別れ際に雷が鳴り、続けて雨が降り始め、怪しい風体の男達四人が MJ の後を付ける。MJ は、金を奪おうとする男達を殴ったり蹴ったりして彼等と戦うが、多勢に無勢であり、ナイフを持った男もいるこの四人組に太刀打ちできない。ピーターはスパイダーマンのスーツで MJ を救いに現れるが、愛する MJ の危機に焦っていた為にマスクを被っていないままであり、蜘蛛の糸を使って四人を MJ から引き離れた上で、彼等を文字通り一蹴する。雨を降らせ、街を一気に暗くするのも、MJ と距離を取れる位置まで四人組を移動させるのも、ピーター・パーカーの顔を MJ が見分けられない様にする為であり、そしてその為の演出であることは言うまでもない。離れたところからその様子を見ていた MJ はスパイダーマンに近寄るが、マスクを被っておらず顔を見られてしまうので、スパイダーマンは一瞬身を隠し、蜘蛛の糸に捕まって上から逆さに成って降りて来る。実は、ここでスパイダーマンが逆さに降りる必然性は無く、これは次に述べるキスシーンを導く為に設定されたことであるが、観客は目まぐるしい展開の中でその不自然さに気付かない。

二人の間で若干の会話が行われた後で、MJ はスパイダーマンがマスクを着けていない姿を遠目からとはいえ見ていて、マスクが脱げるのが分かっているのでは⁸⁾、マスクを口の部分まで引き下げてかなり濃厚なキスをスパイダーマンと交わす。ピーター・パーカーにとっては間違いなくファーストキスであり、ピーターはずっと憧れだった MJ とのキスに、正に天にも昇る気持ちであろう。

ここで三つの点を指摘しておきたい。第一には、スパイダーマンによる MJ の一度目の救出の折には、MJ はスパイダーマンに注意を促す声を発するのみであったが、この二度目の救出の際には、力が及ばなかったとはいえ、男達四人を相手に戦っており、最後はスパイダーマンに救われるのだが、より活動的、能動的になっている。

第二には、MJ が、正体が不明であるスパイダーマンに対して恋愛感情を抱いていることである。MJ がスパイダーマンと交わすキスはかなり強烈で濃厚なものであり、そこに恋愛感情が表れていることは疑う余地が無い。

第三には、そのこととの関連で言えることであるが、MJ は、ハリー

と付き合いはいるが、そこに本当の恋愛感情があるのかは大いに疑わしいということである。MJ が映画の冒頭以来卒業式の日まで付き合い続けたフラッシュ・トンプソンは、新車を買ってもらっているところ (ch.5, 0:31.28-) から判断するとそれなりの金持ちの家庭に育っており、ハイスクールではアメリカンフットボールのスター選手であり⁹⁾、スパイダーマンとキスした時点で付き合い続けているのはピーターの親友であるハリーなのだが、ハリーは大富豪である兵器会社社長の息子である。貧乏な家庭で、恐らくは母親と離婚した父親に罵倒されながら育った MJ の付き合い相手の選び方は、自分が本当に好きであるかよりは社会的に注目されているか、或いは金持ちの家庭に育ったかが基準となっているのではないかと推察される。スパイダーマンも、社会的に注目されるヒーローなのだが (但し、*Daily Bugle* 紙の報道等によって、そうは思っていない人々も少なくない)、彼は自分の危機を二度に渡って救ってくれた正に MJ 自身にとってのヒーローなのであり、スパイダーマンに対して芽生えた恋愛感情は、フラッシュやハリーに対するものとは明らかに違っている。その後 MJ は、スパイダーマンとピーター・パーカーの間で揺れ動き、遂にはピーターへの愛に気付くことになる。しかし、スパイダーマンであることで MJ を危険にさらしてしまったピーターは、MJ からの愛の告白を受け入れることが出来ないのだが、その点については後述する。

又、ここでは、スパイダーマンによる MJ の二度目の救出が、グリーン・ゴブリンの襲撃からの救出ではない点にも注意したい。スパイダーマンによる MJ の三度の救出を全てグリーン・ゴブリンからのものとしてしまうと、映画がパターン化し単調なものになってしまうので、二度目の救出はグリーン・ゴブリンとは無関係なものとしているのである。勿論、MJ とスパイダーマン (ピーター・パーカー) のキスを描くためには、グリーン・ゴブリンは邪魔に成るという要因も大きい。

続けて MJ の三度目の救出について分析すべきであるのだが、その前に、スパイダーマンによる子どもの一度目と二度目の救出について論ずる。MJ の三度目の救出と子どもの三度目の救出は、決定的なところで交錯することに成るのだが、それについて考察するためには、先に子どもの一度目と二度目の救出について幾つかの点を確認しておく必要があるからである。

3. スパイダーマンによる子どもの一度目の救出と二度目の救出

スパイダーマンによる子どもの一度目の救出は、オズコープ社によって行われている調和の日の祭典の最中にグリーン・ゴブリンが出現し、取締役会のメンバー達の多数を小型爆弾で殺した直後 (ch.11, 1:07.47-) に行われる。スパイダーマンが現れてグリーン・ゴブリンをグライダーから蹴り落とすのだが、そのまま飛び続けたグライダーが調和の日の祭典の看板を吊していた巨大なバルーンを突き破ってしまったために、看板が6-7歳位と思われる男の子ビリー Billy (と母親が叫んでいる) に向かって倒れて来て、恐怖に体が強張ってしまったその男の子は動く様にスパイダーマンに呼び掛けられても逃げる事が出来ず、看板の下敷きに成る寸前に彼によって助けられる。

ここで演出上注目すべきことは主として三つある。第一には、母親が「誰か彼を助けて！」と叫んでいることである。このことによって、スパイダーマンによる子どもの救出が観客に印象付けられる。第二には、助けた子どもをスパイダーマン自らが母親に手渡していることである。このことは、子どもに「マミー！ (Mommy!)」と叫ばせることでより強調されている。

注目すべき第三の点は、スパイダーマンによる子どもの救出が、彼による MJ の救出に先立って、それとほぼ相前後する様に映画内に置かれているということである。スパイダーマンによる子どもの救出と MJ の救出は、それぞれ映画内で三度有るのだが、三度目はそれが同時に起きる。子どもの救出と MJ の救出を殆ど連続して描くことは、MJ と子どもの三度目の同時の救出を印象付ける為の伏線として機能している。

続けて、スパイダーマンによる子どもの二度目の救出を分析する。それはスパイダーマンによる MJ の二度目の救出に続く場面でのことである。ここでも、MJ の救出と子どもの救出が、同一の場面ではないが連続した二つの場面で描かれる。MJ の救出と子どもの救出を三度続けて同じ場面で描くことは、映画をパターン化して単調なものとしてしまうので避けられているが、同時に、MJ の救出の場面と子どもの救出の場面を連続させることで、二種類の救出の繋がりを強調している。

ニューヨークの街の中での火事で、赤ん坊を部屋に戻って救おうとする母親は、消防隊員に屋根が崩れかけていることを理由に止められ、空中から現れたスパイダーマンに向かって「私の赤ちゃんを助けて下さい！ (Save my baby, please!)」と矢張り叫ぶ。爆発音と共に燃え盛る部屋から炎が飛び出し、母親が“No!”と悲鳴を上げることで、赤ん坊の危機が強調される。二度目の爆発と合わせる様にスパイダーマンが赤ん坊を抱いて部屋から飛び出して、ここでも母親に赤ん坊を自ら手渡す。スパイダーマンは母親に赤ん坊の無事を伝え、母親はスパイダーマンに神の祝福が有るようという礼を口にする。

この直後に二名の警官が現れ、スパイダーマンを逮捕したと告げる。スパイダーマンはピーターのおじベンを殺害した男を殺した嫌疑を掛けられ警察に追われているのである。しかし、火事に成っている建物から、恐らくは女性のものと思しき悲鳴が聞こえ、スパイダーマンはその救出に向かい戻っては来ないことを警官達に話す¹⁰⁾。火事の建物の中にいたのは、布に身を包んで正体を隠していたグリーン・ゴブリンであり、自分と組まないかという以前の申し出 (ch.12, 1:15.49-) を拒絶したスパイダーマンに対して¹¹⁾、回転翼状の何枚かの刃が付いた小型の飛行物体を幾つか投げ付け、スパイダーマンは左前腕部に傷を負うが、ゴブリンに対して一定のダメージを与えた後に、三度目の爆発に合わせる様にその場から待避する¹²⁾。この場面での負傷が、少し後の場面で感謝祭に七面鳥を食べようとしている時に、シャツに付いた血の染みとおばメイが捲ったシャツの袖の下から現れた切り傷からスパイダーマンが実はピーター・パーカーであることがグリーン・ゴブリンの正体であるノーマン・オズボーンに露見することへと繋がり、それがゴブリンのおばメイに対する襲撃と、更にはMJの誘拐とを齎す。ここでも子どもの救出は、MJの救出に連続するのみならず、その危機と結び付いたものと成っている。

4. スパイダーマンによる MJ の三度目の救出と子どもの三度目の救出

スパイダーマンによる MJ の三度目の救出と子どもの三度目の救出は、ほぼ同時に行われ、そのことが後述するある一つのショットによって強

調されている。この場面に先立って (ch.14, 1:32.25-)、おばメイがグリーン・ゴブリンに襲撃された後で入院している病室でMJがピーターに顔を見たことも無いスパイダーマンを愛していると思うと語り、彼にスパイダーマンが自分について何を言っているか尋ねる。それに対して、ピーターは、スパイダーマンが自分にMJをどう思うか尋ねた時の答えとして語ったという殆ど愛の告白にも等しい言葉を彼女に告げ、彼女が思わず握った手を握り返す。おばメイは眠った振りをしながら二人の話の聞いている。丁度この時にハリーが病室に入って来ると、二人は握り合った手を即座に離すのだが、その様子をしっかりと見られてしまう。

次の場面 (ch.14, 1:35.51-) では、ハリーは父ノーマン・オズボーンにMJはピーターを愛していて、ピーターは4年生の時からずっと彼女のことが好きだと語る¹³⁾。これによってグリーン・ゴブリンによるMJの誘拐、或いは拉致が引き起こされることと成る。ピーターは、病室でおばメイと話していて、「教えて、あなたがどれ位メリー・ジェーンのことを好きなのか彼女に知って貰うとしたらそんなに危険なの？ 他人は誰でも知っている (のに)。(Tell me, would it be so dangerous to let Mary Jane know how much you care? Everybody else knows.)」(ch.14, 1:38.29-) と言われ、慌ててMJに電話する。彼は答えない彼女の留守番電話に暗い通りを歩かない様にとという注意を吹き込むのだが、グリーン・ゴブリンが電話に出て来て「スパイダーマンは遊びに出て来られないのかな？ (Can Spider-Man come out to play?)」¹⁴⁾ と話すと、拉致された彼女の居場所を尋ねたピーター・パーカーはスパイダーマンとしてその救出に向かう。

グリーン・ゴブリンの言葉は、言うまでもなく、マザー・グースの中の「ジョージ・ポージー (George Porgie)」の一節のもじりである。歌詞を確認しよう¹⁵⁾。

George Porgie, pudding and pie
Kissed the girls and made them cry
When the boys came out to play
George Porgie ran away

ジョージ・ポージー、プディング／プリン¹⁶⁾ にパイ

女の子達にキスして泣かせた
男の子達が遊びに出て来ると
ジョージ・ボージーは逃げ出した

グリーン・ゴブリンはここでピーター・パーカー／スパイダーマンを子ども扱っている。又、MJの誘拐、或いは拉致という文脈の中では、このセリフを聞いてMJとスパイダーマンのキスを想起した観客もいるのではないか。

MJは、恐らくは前にスパイダーマンがグリーン・ゴブリンに眠らされた時 (ch.12, 1:15.31-) と同じく、そのスーツの手首の部分から発出される睡眠ガスで眠らされており、目を覚ますと夜の闇の中でクィーンズボロ橋を見下ろす屋外の高所に居る (ch.15, 1:39.36-)¹⁷⁾。寝ていて目覚めた彼女は立ち上がるが、ふらついて落ちそうになる。グリーン・ゴブリンは、暗いので年齢が良く分からないが、7-8歳位かもう少し上かも知れない子ども達の乗ったケーブルカー (tram) の外にグライダーに乗って現れ、次の様に歌う。

The itsy-bitsy spider
Went up the waterspout
Down came the Goblin
And took the spider out

ちっちゃい蜘蛛が
雨どいを登った
ゴブリンが降りて来て
蜘蛛を殺した¹⁸⁾

これは童謡の “Itsy-bitsy Spider”¹⁹⁾ の次の歌詞のもじりである。

The itsy-bitsy spider
Crawled up the waterspout
Down came the rain
And washed the spider out

ちっちゃい蜘蛛が
雨どいを這い登った
雨が降って来て
蜘蛛を流し出した

グリーン・ゴブリンの歌は、これから自分がスパイダーマンを倒すことを含意したものである。

その後、ゴブリンは川岸の建物をグライダーから発射したミサイルで破壊し、その爆風と炎はクィーンズボロ橋上の自動車の混乱をも引き起こす。爆発で切れたケーブルカーのケーブルを右手に持ち、左手でMJの首を持ったゴブリンは、「狂人 (lunatic)」としての「サディスティックな選択」として「愛する女性を死なせてしまうか小さな子ども達を苦しませるか」の二者択一をスパイダーマンに迫る。MJがバタつかせる足からは両方の靴が落下し²⁰⁾、子ども達は、今度はその場には居ない母親ではなく自分達の口で、「スパイダーマン！ 助けて！ 助けて！」と叫ぶ。

グリーン・ゴブリンが「スパイダーマン、選んでヒーローがどう報われるかを見る／悟る (see) のだ」と言い、スパイダーマンが「ゴブリン、やめるんだ」と制止するのを無視してこども達の乗ったケーブルカーのケーブルとMJとを「我々は自ら選択した者と成っているのだ。(We are who we choose to be.²¹⁾) さあ、選べ！」と叫んで同時に離れた時、スパイダーマンは“No!”という言葉の後には一瞬凍り付いた様に身動き出来なくなり、その右眼には落ちて行くMJが、その左眼には落下するケーブルカーが映る。劇映画 (物語映画) のヒーローとしてスパイダーマンが持つ最大の欠点は、顔全体がマスクに隠れていてその表情が全く分からないことである。この点は、顔全体が見えているスーパーマンや両眼と口から顎が見えているバットマンとのスパイダーマンの最大の違いであり、運動の最中も含めて或る瞬間の制止した姿がそれぞれに描かれるコミックスや、動きが描かれるにせよ実写に比べて一定の様式化が行われているアニメーションではそれ程は目立たないが、実写映画では非常に目立ったものと成る²²⁾。この欠点を映画『スパイダーマン』は逆に利点として活用しているのである。

スパイダーマンの顔全体が隠れていることを強調するために、何時も

は黄色いガラスで隠れているグリーン・ゴブリンの両眼は、ガラスが収納されて見えている時があり、この場面では、ケーブルカーのそばにグライダーに乗って登場する時には隠れていた両眼が、スパイダーマンに選択を迫る時には見えている²³⁾。

一瞬の遅れの後に、スパイダーマンは駆け出し空中に飛び出して、先ずMJを抱き留めた後で、左肩をMJに両手で掴ませたまま右手ではケーブルカーのケーブルを握ってその落下を食い止め、左手から放った糸を使って橋からぶら下がり、MJとケーブルカーの子ども達の両方を同時に救うという離れ業を見せる。ここで併せて注目すべきは、MJが只スパイダーマンに救出されるには止まらず、彼に促され励まされてとはいえ、ケーブルカーを目指してケーブルを降りて行くことである。グリーン・ゴブリンに二度目に殴られた時にはスパイダーマンは一旦ケーブルを離してしまい、それを握り直すのだが、ケーブルを手放したMJが落下しながらもケーブルカーの外側に掴まり、その後グライダーから刃を出してスパイダーマンを殺そうとするゴブリンに対して人々が次々とものを投げてそれを防いでスパイダーマンを助け、救出に駆けつけた船の上にスパイダーマンがケーブルカーを下ろすことでMJも子どもも助かることは既に木村 2022:49 (8) で論じた通りである。MJはスパイダーマンによる三度の救出を通して少しずつ成長を見せ、一方的にスパイダーマンによって救われる状態から最後は自力で助かるまでになる。更には、迫るグリーン・ゴブリンを見て一度目の救出時と同様にここでも「気を付けて！ (Watch out!)」と叫んでスパイダーマンに注意を促すのだが、今度はスパイダーマンにはこれに答えて対応することが出来ない。

人々によるスパイダーマンへの加勢を避ける為であろうが、グリーン・ゴブリンはスパイダーマンに紐状のものを巻き付けて廃墟へと連れ込み、そこで彼を殺害しようとする。最初はゴブリンに一方的に攻められ反撃出来ずにいたスパイダーマンは、スパイダーマンが「利己的 (selfish)」だという理由でゴブリンは早く痛み無しに殺すつもりであったMJのことを充分にゆっくりと死なせる、「自分とMJは物凄く楽しい時間を過ごすことになる。(M.J. and I, we're gonna have a hell of a time.)」²⁴⁾ と言うと、スパイダーマン／ピーター・パーカーの表情が変わる。尚、この時点では、グリーン・ゴブリンの投げた爆弾の爆発に

よって、スパイダーマンのマスクが裂けてピーター・パーカーの顔の全体が殆ど見えている状態である。

MJの危機に際しては本気となるスパイダーマン／ピーター・パーカーはここから反撃に転じ、ゴブリンの攻撃を食い止め、ゴブリンを逆に攻め続ける。ゴブリンはマスクを外して自らがノーマン・オズボーンであることを明らかにし、自分を支配するグリーン・ゴブリンとは別人格である、自分はピーターにとって父の様なものだと言明するが、これは演技である。ピーター・パーカーによって自分の父はベン・パーカーだと拒絶されると、ゴブリンは刃を出したグライダーを後ろからスパイダーマン／ピーター・パーカーに突進させて彼を殺そうとする。しかし「スパイダー・センス」(超人的な感覚)²⁵⁾によって恐らくはグライダーが動き出す音と刃の出る音を聴き取りそれに気付いた彼は、飛び上がってグライダーを避け、刃に直撃されたグリーン・ゴブリン／ノーマン・オズボーンは、ハリーには自分がグリーン・ゴブリンだったことを秘密にする様に頼んで息絶える²⁶⁾。

スパイダーマン／ピーター・パーカーは、ノーマン・オズボーンの屋敷にその遺体を置きに行くのだが、丁度訪ねて来たハリーに目撃され、父親を殺したのはスパイダーマンだと誤解される。但し、部屋が暗く距離が遠かったこともあって、ハリーにはスパイダーマンがピーターであることは分からない。

最後の、ノーマン・オズボーンが埋葬された後の墓場での場面(ch.16, 1:50.20-)では、先ずハリーによって、スパイダーマンに何時か罰を受けさせるという決意がピーターに語られ、同時に、ピーターは今や彼にとって唯一の家族であることが感謝の念と共に伝えられる。ノーマン・オズボーンの死の真相をハリーには伏せなければいけないピーターにとっては、これは文字通り身を引き裂かれる様な事態であろう。

その後ピーター・パーカーは、木村 2022:48-47 (9-10)でも述べた様に、MJから、死の危機の中で思ったのは生き続けることが出来ればピーター・パーカーに又会えるということであり、自分が愛しているのはピーターなのだと言明されて、熱いキスまで交わしておきながら、彼女を再び死の危険に巻き込むことを恐れてその告白を受け入れることが出来ない²⁷⁾。この決断がおじベンの事実上の遺言を曲解したものであることも既にそこで論じた通りであるが、この場面では、ハリーとの間で、

そして MJ との間で、つまり友情と恋とに関して、ピーター・パーカーは二重に引き裂かれている。

映画『スパイダーマン』の最後の場面で示されたこれら二つの問題の内でどちらが『スパイダーマン2』で先により重点的に取り上げられることに成るかは、実際に作品を見る前から自明であろう。「復讐」はしばしば長い時間を要するものであり、待ってくれるが、恋は待つてはくれないからである。目的の達成と恋愛の成就が同時に成されるというハリウッド映画、アメリカ映画の定石に反して、藤井 2008:84-91 が言う〈仮面〉と〈素顔〉の偽りの対立或いは葛藤の解消は『スパイダーマン2』の結末に至ってようやく、スパイダーマンの正体がピーター・パーカーであることを知った MJ との間に齎される。それが、MJ を危険に巻き込むことを避けようとするピーター・パーカーによってではなく、彼のことを選んで婚約者との結婚式場である教会から逃げ出してきた MJ によってであるのは、『スパイダーマン』を通しての成長を受けて『スパイダーマン2』でも女優として成功し更なる成長を遂げた MJ が、ピーターとの恋愛に於いて決定的な主導権を握っているということをはっきりと示している。スパイダーマンによる三度の救出を通じての、又ニューヨークでのアルバイトをしながら女優を目指す生活による、『スパイダーマン』に於ける MJ の主体性・自立性の確立は²⁸⁾、『スパイダーマン2』での二人の恋の成就にとって必要不可欠なものであると言うことが出来る。併せて指摘するならば、愛を告白するのは『スパイダーマン』でも『スパイダーマン2』でもピーター・パーカーではなく MJ なのであり、スパイダーマンとして活動するピーター・パーカーは、ヒーローとしての活躍というメインプロットに於いては中心的な役割を果たしているかも知れないが、もしかしたらメインプロット以上に重要でこちらこそがメインプロットであるかも知れないサブプロットの恋愛に関しては、主導権は決定的に MJ にあるのだ²⁹⁾。

『スパイダーマン』については、ピーター・パーカー／スパイダーマンとノーマン・オズボーン／グリーン・ゴブリンの類似性・共通性と対照性や両者それぞれにおける因果律の連鎖とそれらの時としての交錯という問題についても論じる必要があるのだが、それは別稿に譲ることとする。

注

- 1) 但し、『スパイダーマン3』は映画としては完全な失敗作である。この映画の不十分で失敗している点については、木村 2022:32-33 (25-26) n.13 及び木村 2022:33 (26) n.14 を参照。又藤井仁子が、『スパイダーマン』に於いては「〈仮面〉と〈素顔〉の葛藤」が「類似記号と指標記号の葛藤として展開されていく」が (藤井 2008:85)、『スパイダーマン2』に於いてはそうした葛藤が乗り越えられ (藤井 2008:89-90)、但し『スパイダーマン3』では「こうした葛藤がほとんど消えてしまっている」 (藤井 2008:91) と述べる時には、『スパイダーマン3』が失敗作であることも含意されていると考えられる。

付け加えるならば、『スパイダーマン3』が焦点のぼやけた作品と成ってしまった重大な理由の一つには、この映画では、『スパイダーマン』や『スパイダーマン2』とは違って、科学を得意とするが遺伝子操作によって生み出された変異した蜘蛛に噛まれスパイダーマンと成ってしまったピーター・パーカーと、科学的な実験を行っている最中にアクシデントによって「怪物」に変わってしまった悪役 (『スパイダーマン』ではノーマン・オズボーン Norman Osborn / グリーン・ゴブリン Green Goblin、ウィレム・デフォー Willem Dafoe、『スパイダーマン2』では Dr. オットー・オクタビアス Dr. Otto Octavius / ドク・オック Doc Ock、アルフレッド・モリーナ Alfred Molina) との類似と対比がそもそも描かれていない、ということ挙げることが出来るだろう。尚『スパイダーマン』の Blu-ray Disc に所収のメイキングドキュメンタリー *Behind the Ultimate Spin* (Producer and Director: Greg Socher) の中で、サム・ライミは、脚本の執筆中であった『スパイダーマン2』では (インタビューの収録は『スパイダーマン』の公開前である)、ドク・オックはカメオ出演で他に悪役が二人程出ると語っている (0:38.29-)。恐らくは脚本の執筆が進む中で、『スパイダーマン』との構造的な類似性を或る程度保ちつつも同時に差異を際立たせる為に設定が大幅に変更されたものと考えられる。

- 2) 但し、『スパイダーマン』と『スパイダーマン2』に於いては、ピーター・パーカー / スパイダーマンとノーマン・オズボーン / グリーン・ゴブリン、或いは Dr. オットー・オクタビアス / ドク・オックが二つの系列として描かれ時にそれら二系列を交錯させるという方法が採られており、これは多くのハリウッド映画、或いはアメリカ映画とは異なっている。この点については機会を改めて、『スパイダーマン』に関して分析することとする。

又、何時頃までの或る程度以上の予算規模の劇映画 (物語映画) を「ハリウッド映画」と呼ぶことが出来るかについては映画学者の間でも意見が分かれるところであり、この問題を扱うことはこの論文ではない。古典

的ハリウッド映画の時期については、Bordwell et al. 1985によれば1917年から1960年であり、木村の考えではその中核的な部分は1934・35年頃から1953・54年頃であるのだが、この点の議論も別の機会に譲る。

- 3) まだ映画の中でスパイダーマンのスーツを作る前のことであるが、ピーターはMJが床に零れていたオレンジジュースに足を滑らして倒れるところを片腕で受け止め、もう片手では彼女が空中に飛ばした料理や飲み物等を矢張り彼女が飛ばしたトレーを持って次々と受け止める (ch.4, 0:22:00-)。尚、Blu-ray Discに収録された『スパイダーマン』本篇へのトビー・マグワイアのコメントによれば、ここはCG合成ではなく、実際に彼がトレーを持ち、上からものを相次いで落として撮影された。又この時には、ピーターは視力が超人的と成り眼鏡を外していた為に、眼の色が青いことをMJに指摘される (但し、恐らくMJは、ピーターが眼鏡をコンタクトレンズに変えたと思込んでいる)。その少し後にはピーターはMJが当時交際していたフラッシュ・トンプソン Flash Thompson (ジョー・マンガニエロ Joe Manganiello) に喧嘩を仕掛けられるのだが、彼のことを簡単にぶちのめす。

ニューヨークでスパイダーマンとしての活動を始めてからも、ピーターは後述する様に、スパイダーマンとしてMJを救出するのみならず、ピーター自身としてもオーディションを受けたMJに会いに行き、グリーン・ゴブリンに襲撃されたおばメいの病室では殆ど愛の告白と言っても良い内容の話をMJに語るなど、スパイダーマンとしての活動から得た自信に支えられてのことでもあろうが、MJに対して積極的な態度を取る。但し、後述する様に、こうした態度は、自分がスパイダーマンであることでMJを危険に巻き込んでしまったことによって一変する。

- 4) この場面は、『スパイダーマン』のプロデューサーの一人であるイアン・ブライス Ian Bryce の証言によれば (Vaz 2002:121)、タイムズスクエアでのロケーション撮影、カリフォルニア州のダウニー Downey の駐車場に建てられたタイムズスクエアの下方二、三階の巨大な屋外セットでの撮影、タイムズスクエアの写真のグリーンバック (greenscreen) を用いたバルコニーのセットでの撮影 (映画の最後のクレジットによれば恐らくはロサンゼルス近郊のカルヴァー・シティーであろう)、CGという四つの要素をCGで合成して作り上げるという非常に複雑な工程によるものである。この場面を含む、『スパイダーマン』に於けるニューヨークの街の映像の作成に関してはVaz 2002:149-159も参照。

『スパイダーマン』と『スパイダーマン2』が映画に於けるデジタル技術の歴史の中で占める位置については、藤井 2008:76-77 と Bordwell 2006:238-242 を参照。

- 5) スパイダーマンが武器を使用せず、グリーン・ゴブリンが数多くの種類

の武器を使用することの意味については、木村 2022:46 (11) -45 (12) を参照。

- 6) 匿名の査読者の指摘を受けて日本語訳を修正した。記して感謝する。
- 7) 飛び去るスパイダーマンを MJ が見送るショット (ch.11, 1:10.41-) では、画面右下に並んだ星条旗が見えている。これは、グリーン・ゴブリンとの戦いというメインプロットにおいてスパイダーマンがアメリカ合州国と強く結び付いていることをサブプロット (とはいえ既に述べた様に通常のサブプロットよりも遙かに重要であり、もしかしたらこちらがメインプロットでさえあるかも知れない) と関係付ける演出である。スパイダーマンとアメリカ合州国の強い結び付きについては木村 2022 を参照。
- 8) スパイダーマンのスーツには、マスクが外せるものとマスクとそれ以外の体を覆う部分が一体と成ったものとの二種類があるのだが、映画はスーツが恰も一種類しかないかの様に進行する。MJ の一度目の救出の際には、当初はマスクが外せるスーツだったのが、スパイダーマンが空中を飛んで来て再登場して以降 (ch.18, 1:07.47-) はスーツは全身一体型である。『スパイダーマン 2』でも、スーツはマスクが外せるものと全身を覆うものとの二種類があるのだが、ピーター・パーカーがスパイダーマンであり続けることに対する嫌悪感から道端のゴミバケツに棄てる時にはスーツは全身タイプであり (ch.9, 1:02.55-)、浮浪者に拾われ謝礼目当てに *Daily Bugle* 紙を発行する新聞社に届けられて (ch.10, 1:08.25-)、その後オフィスに飾られているスーツはマスクとそれ以外の部分が分離したものである (ch.13, 1:32.05-)。尚、後者を含む場面では、目の前で MJ をドク・オックに掠われたピーター・パーカーが、*Daily Bugle* の編集長 (J・K・シモンズ J.K. Simmons) 達はその飛行の音に気付いて振り向く前にこのスーツを取り戻して (後には「御挨拶。あなたの親切なご近所のスパイダーマン。」と言うメモが残されている)、スパイダーマンとしての活動を再開する。
- 9) 『スパイダーマン』の Blu-ray Disc に所収のメイキングドキュメンタリー *Behind the Ultimate Spin* (Producer and Director: Greg Socher, Columbia Pictures Industries, 2002) の中でのキルスティン・ダンストのコメント (0:10.49-) による。
- 10) 『スパイダーマン』の Blu-ray Disc に収録された本篇へのトビー・マグワイアのコメントによれば、この火事の場合はニューヨークの街の中で実際に建物を燃やして撮影されている。又トビー・マグワイアのコメントとともに同時に収録された J・K・シモンズのコメントによれば、消防士達や警官達の多くは (恐らくはセリフのある役を除いては) 本物の消防士や警官である (ch.13, 1:22.08-)。但し矢張り『スパイダーマン』の Blu-ray Disc に収録された同じ場面への視覚効果スタッフであるジョン・ダイクストラ John Dykstra、アンソニー・ラモリナラ Anthony LaMolinarra、スコット

ト・ストックダイク Scott Stokdyk のコメントによれば、爆発や空中を飛んでくるスパイダーマンはCG合成であり、屋内はダウニーやロサンジェルスでのセット撮影であるが、セットは実際に燃やされており、トビー・マグワイアやウィレム・デフォーは可燃性の高いスーツを着たまま炎の中で演技している。勿論、必要に応じて炎はCGで追加されているだろう。

- 11) 尚、この申し出の直前の場面でノーマン・オズボーンは自らがグリーン・ゴブリンであることに気が付くのだが、この場面については、別の論文で詳細に分析する予定である。
- 12) ここでもMJの救出と子どもの救出の場合と同様に三度の反復が活用されている。三度の反復の様々なヴァリエーションとその効果については木村2020を参照。
- 13) 但しピーター・パーカーがMJを好きに成ったのは、おばメイが直ぐ後で引用するセリフの直前に言う様に6歳の頃のことであり、又、この時点では、MJは自分がピーターを愛していることにまだ気が付いていない。
- 14) 訳については、匿名の査読者の指摘を受けて修正した。記して感謝する。
- 15) 詩(歌詞)は藤野・夏目2004:124等を参照したが、歌詞なのでコンマやピリオドは付けなかった。尚コンマ、ピリオド、セミコロン等をどうするかは文献によってまちまちである。
- 16) “pudding”を「プリン」とする日本語訳も多数あるが、“pudding”は甘いとは限らないので、「プディング／プリン」と訳した。この点については例えば藤野・夏目2004:124を参照。
- 17) 当初の原稿ではブルックリン橋としていた。これは、この場面に加えたBlu-ray DiscでのコメントリーでJ・K・シモンズがそう発言しており、対談相手のトビー・マグワイアも訂正していないのでそうであると考えたものであるが、匿名の査読者からクィーンズボロ橋であるとの指摘を受けた。視覚効果スタッフによるコメントリーを確認したところ、クィーンズボロ橋であるとの発言があり、又ニューヨーク市の地図も見て、指摘通りに修正した。記して感謝する。
- 18) “take out”は俗語で「殺す」という意味である。高橋作太郎(編集代表)2012を参照。尚、この点について匿名の査読者より指摘を受けた。記して感謝する。
- 19) 『スパイダーマン』の中で歌われる部分のメロディーは「静かな湖畔の森の陰から」と酷似しているが、後半部分はメロディーが異なり、二つの曲の関係は分かっていない。

又、ここに書いた歌詞はアメリカで歌われているもので、イギリスやオーストラリアでは歌詞が微妙に異なり、曲名も“Incy Wincy Spider”と違っている。インターネット上のサイト『世界の民謡・童謡』を参照。同サイトでは、後半部も含めてこの曲の歌唱を聴くことが出来るが、この曲

の歌唱を聴くことが出来るサイトは他にも多数有る。“Itsy-bitsy Spider”でインターネットを検索されたい。

- 20) 人が落下の危機を迎えている時に先にものを落として観客の不安を煽るのは、劇映画（物語映画）でよく用いられる演出であり、MJの一度目の救出の際にも彼女が落ちそうになっている時にバルコニーの一部が落下する様子が繰り返し描かれていた。
- 21) 日本語訳については、匿名の査読者の指摘に従って修正した。記して感謝する。
- 22) ここではアメコミに由来する所謂三大ヒーローを取り上げたが、こうした比較はCGによる処理が普通となり、顔が隠れているヒーローも多いアベンジャーズ等との間では成立しない。しかし、『スパイダーマン』はアベンジャーズが登場する諸作よりも年数的に大きく先行しており、ここでの演出が画期的かつ非常に効果的なものであったことには疑問の余地が無い。
- 23) グリーン・ゴブリンがスパイダーマンを睡眠ガスで眠らせて連れ去り、自分と組まないかと誘いかける時にも (ch.12, 1:15.49-)、スパイダーマンとの対比を強調し、表情の一部を見せるために両眼が見えており、目は口程にものを言うので、ここでも表情が完全に隠れたスパイダーマンと両眼が見えているグリーン・ゴブリンの対比が際立っている。藤井 2008:88 は「スーツのなか（にあるはず）のウィレム・デフォーの身体は、ほぼ完全に画面から消し去られていました」と述べる時、これらの重要な細部を見落としている。

尚ここでは、外出先なのだからマスクが外れるタイプのスーツを着ている筈のスパイダーマンは、全身を一体で覆うスーツを身に付けている。これは、グリーン・ゴブリンによってマスクを外されない為である。二種類のスーツは物語の都合に合わせて極めて便宜的に使い分けられている。注 8) を参照。
- 24) 匿名の査読者の指摘を受けて日本語訳を修正した。記して感謝する。
- 25) スパイダー・センスは、既に触れたフラッシュとの喧嘩の直前にもその視覚的な側面が登場していたし (ch.4, 0:23.37-)、ピーター・パーカーがグリーン・ゴブリンのタイムズスクエアへの襲来に集まっていた人々よりも先に気付くのもそれによる超人的な聴覚のお陰である (ch.11, 1:05.54-)。
- 26) 木村 2022:31-30 (26-27) 注 18) でも述べた様に、ヒーローが人を殺さないのは、幼少年向けのヒーローもののアメリカ映画における鉄則である。尚、スパイダーマンとグリーン・ゴブリンの戦いも、子どもの一度目の救出と MJ の一度目の救出と同じ場面でのもの、子どもの二度目の救出後のものに続いて三度目であり、この点に関しても三度の反復の効果が活用されている。

- 27) ピーター・パーカーが、MJ を再び危険に巻き込むことを危惧してその愛の告白に応えられないというこの結末には、「誰もが怒っていた」とトビー・マグワイアは『スパイダーマン』の Blu-ray Disc に所収の映画本篇へのコメントで述べるが、彼はそこにピーターの成長をも見て取っている (ch.15, 1:54.47-)。後述する様に映画『スパイダーマン』を通して MJ は大きな成長を遂げるのだが、ピーターも成長しているのである。J・K・シモンズはトビー・マグワイアに続けてコメントし、この結末に成長したピーター・パーカーの「精一杯」の「現実的で高潔な態度」を見て取るのだが、トビー・マグワイアや J・K・シモンズのコメントをもし聞けばそれらに賛同した当時の観客はかなりの数に上るのではないかと木村は考える。但しこれは今では確かめようがないことであるが。
- 28) MJ が『スパイダーマン』を通じて「見事な成長を遂げ」「大切なものが何であるか見極め」られる様になったことはトビー・マグワイアも『スパイダーマン』の Blu-ray Disc での映画本篇へのコメントで指摘している (ch.16, 1:53.11-)。同趣旨のコメントをしている出演者やスタッフは少なからずいるが、ここで名前を列挙することはしない。
- 29) その背景には、ピーター・パーカーはスパイダーマンに成る以前は、或いはスパイダーマンに成って以降も、基本的にはモテない冴えない男だということがある。無論このような在り方に、それでもヒーローとして活動するのは男性で、女性は恋に生きるという男性中心主義的な性役割分担を見て取り批判することは十分に有り得る態度である。男女の性役割分担に関して（ここでは性的少数派の問題は棚上げする）、『スパイダーマン』は2002年当時としてはそれなりに進んだ立場であったが、2022年現在から見れば矢張り未だに旧態依然としているのは否めない。勿論、男性であるピーター・パーカー／スパイダーマンが主人公である以上は、これは避け難いことでもある。尚、MJ 役にキルスティン・ダンストを起用したのは「トビー・マグワイアとの相性 (chemistry)」を重視してのことであるとサム・ライミは『スパイダーマン』の Blu-ray Disc に所収の前掲 *Behind the Ultimate Spin* で述べている (0:11.42-)。

人気のアクションスターをピーター・パーカー／スパイダーマン役に起用しようとするプロデューサー達に対してサム・ライミがピーターのキャラクターを説明し説得してトビー・マグワイアの起用に至ったことについては、『スパイダーマン』の Blu-ray Disc に所収の映画本篇へのマグワイアのコメント (ch.1, 0:02.11-) と、同じ Blu-ray Disc に所収の Betsy Rutt 製作責任 *E! Original Special: Spider-Mania* (2002) 中のこの映画のエグゼキュティブ・プロデューサーであるアヴィ・アラッド Avi Arad とサム・ライミのそれぞれのコメント (0:10.09-) を参照。因みに木村 2022:34 (23) 注 2) でも触れた通り、サム・ライミは子どもの頃からコミック『スパイ

ダーマン』シリーズの熱狂的なファンであり、その細部を知悉していて、前掲 *Behind the Ultimate Spin* では、ピーター・パーカーは「彼女は無く、ニキビがあり、平均的な見かけの子ども」であると語っている (0:08.55-)。尚このコメントは、映像から判断すると、ピーターを演じたトビー・マグワイア等と並んで、マスコミの取材陣を前にして言われたものである。

映像資料

『スパイダーマン』、Blu-ray Disc、『スパイダーマン トリロジー』、「ブルーレイ コンプリートボックス」、4枚組、ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメント、2017年に所収。

『スパイダーマン』、DVD (「デラックス・コレクターズ・エディション」)、ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメント、2002年。

『スパイダーマン2』、Blu-ray Disc、上掲『スパイダーマン トリロジー』に所収。

『スパイダーマン3』、Blu-ray Disc、上掲『スパイダーマン トリロジー』に所収。

Blu-ray Discのみ、或いはBlu-ray DiscとDVDとを挙げてある場合、本論文中で示したタイムコードはBlu-ray Discのものである。タイムコードはおおよそのものであり、特にディゾルヴやサウンドブリッジでの場面の繋ぎの場合には正確な時点を明記することは不可能である。

音楽資料

『マザーグースの歌 イギリスの伝承童謡』、CD、コロンビアマュージックエンタテインメント、2007年。

主要参考文献・資料

Bordwell, David, Janet Staiger, and Kristin Thompson 1985, *The Classical Hollywood Cinema. Film Style & Mode of Production to 1960*, Routledge & Kegan Paul.

Bordwell, David 2006, *The Way Hollywood Tells It: Story and Style in Modern Movies*, University of California Press.

Burke, Liam 2015, *The Comic Book Film Adaptation: Exploring Modern Hollywood's Leading Genre*, University Press of Mississippi.

Gordon, Ian, Mark Jancovich, and Matthew P. McAllister (ed.) 2007, *Film and Comic Books*, University Press of Mississippi.

藤井仁子 2008、「デジタル時代の柔らかい肌——『スパイダーマン』シリーズに見るCGと身体」、『入門現代ハリウッド映画講義』、藤井仁子編、人文書院、pp.67-94。

藤野紀男・夏目房子 2004、『マザーグース・コレクション100』、ミネルヴァ書房。
IMDb, "Spider-Man (2002): Full Cast & Crew," <https://www.imdb.com/title/>

tt0145487/fullcredits?ref=tt_ov_st_sm (2022年6月5日アクセス。)

木村建哉 2020、「古典的物語映画における三度の反復の効果」、『成城文藝』第252・253号、成城大学文学部、pp.48(1)-18(31)。

木村建哉 2022、「サム・ライミ『スパイダーマン』に於けるスパイダーマンとアメリカ合州国の関係」、『成城文藝』第258号、成城大学文学部、pp.56(1)-19(38)。

Manning, Mathew K. 2012 → 2017, *Spider-Man: Inside the World of Your Friendly Neighborhood Hero*, DK Publishing. Updated edition, with additional text by Tom DeFalco.

Muir, John Kenneth 2004, *The Unseen Force: The Films of Sam Raimi*, Applause. 『世界の民謡・童謡』、「Itsy Bitsy Spider 歌詞の意味 遊び方」<http://www.worldfolksong.com/kids/song/itsy.htm> (2022年6月5日アクセス。)

高橋作太郎 (編集代表) 2012、『リーダーズ英和辞典』第三版、研究社。

Tsakiridis, George (ed.) 2022 (sic.), *Theology and Spider-man*, Lexington Books/Fortress Academic. (木村がこの著作を入手したのは2021年11月である。)

Vaz, Mark Cotta 2002, *Behind the Mask of Spider-Man: The Secrets of the Movie*, foreword by Stan Lee, The Ballantine Publishing Group.

本論文中の映画のセリフの日本語訳は、Blu-ray Disc や DVD の日本語字幕を参考としたが、基本的には木村によるものである。欧文名のみを挙げている文献からの引用も同様である。

本文や注に於ける人名や地名や機関名等の表記は、原則として一般的に通用しているものに従い、例外は有るが(明らかに誤った表記の一部は訂正している)、原音への忠実性は必ずしも重視していない。

本論文の執筆に際しては、幾つかの大学で映画『スパイダーマン』について講義した際に学生達から受けた指摘を切掛けに考えたことを多数取り入れた。彼／彼女等の名前を列挙することは不可能であるが、記して感謝する。

前号の訂正

「成城文藝」258号におきまして、下記のとおり誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

- 「サム・ライミ『スパイダーマン』に於けるスパイダーマンとアメリカ合州国の関係」33 (24) 頁 注9) 1行目

誤 2014年9月14日

正 2001年9月14日